

一同紅黄色は輕し

此二色は血の順よき小兒なり、輕しと云るべし、冬春の比、ほうさき桃のごとく紅なるをいふ、
疱多く出るとも、命にかゝわらず、都て荷の多少は毒氣に有り、此二色は筋よき疱瘡なり、

〔疱瘡心得草〕見點三日間の吉凶の心得之事

見點のみへそめには、表裏の虚實を考へ、うかするてだて、かんじんなり、痘人の性として、風寒にて表をとづるもの有裏の氣のよわきもの有、此外に毒氣をすかして發するも有、是等詳に辨べく、よき醫師を頼み、家内の介抱如在なく心得る事肝要なり、吉症と云とも、出浮くまでは大切也、風としたる物にさはられて、至て輕き疱瘡にても、出浮かずして變にあひ、又は折角出浮かけて引込もあり、かせ口より出浮がたきを大事とすべし、痘の始終は、全く發熱の時に辨へざるべし、見點頭面より見へ、手足ともにばらりと出て、その色上へ白く根あかくして瘡に光り有て、手に探れば、さわる度に熱さつはりと覺め、食事す、み、大便小便常の如きは吉痘なり、頭面にあまた出るといへども、粒わかれて、肌の地あざやかなれば氣遣ひなし、もしくは蚕の種のごとくなるもの、もしくは其色白け、肌の色と同じ、やけどの様なるもの、出るかと思へば隠れ、かくる、かと思へば顯る、もの、發熱一二日にして見點し、又は熱なくして見へて、熱出るものは、至て大切なり、始額よりみゆるを吉とす、頤咽の下より見ゆるは必ず出物多し、兩の頬の痘粒分れて出るは吉症なり、いづれ兩の頬はべつたりとして粒たち分れがたきものなり、兩の頬さへたち出れば、跡より多く出ぬものなり、惣じてよひ疱瘡は、むね腹にはなきものなり、又頭面に見へずして、手足或は腰尻のあたりより見ゆるものは、逆にしてよろしからず、又此時皮ひとへ内にありて出で、浮かざるものは、甚だ六ヶ敷、是非に狂躁てむしやうになくものなり、介抱の人、隨分と心を附べし、見點三日を出そろひとす、足に出るを云ふ、輕きは足のうらになくても、三日になれば出揃と